（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人　三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	静岡県浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	平成25年8月29日	評価結果市町村受理日	平成25年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2278200106-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町５－８　マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の尊厳を重んじ運営理念に基づき、家庭的な雰囲気でゆったりと楽しく自由でありのままに生活できるよう日々努めています。自然に囲まれ恵まれた環境の下、季節の良い時期には園外に散歩に出掛け浜名湖を眺め自然に触れ合っています。毎月計画するお楽しみ会は1月の初詣から12月のクリスマス会まで、季節を感じられる外出や利用者の希望を取り入れた外食、地域のイベント参加、グループの畑で収穫した野菜でおやつ作りなど利用者の楽しみとなっています。デイサービスの利用者との交流や併設する特養での慰問（演奏、大道芸等）の来園など地域の方とも交流があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

浜名湖東岸の高台に位置し、自然豊かな場所に、通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホームなど多様なサービス種別の一角を担って同事業所はあります。また、法人の福祉における歴史も長く、20数余の事業所をもつことも、スケールメリットを生かせ利点となっています。特に、委員会活動と勉強会が合同でおこなわれ、職員の資質向上と動機づけにつながっていることは、内外問わず評価される点です。自由で開放的な空間の中で、利用者に外出や行事の時間を作り、楽しみの場づくりの支援をおこなっており、また地域からのボランティアも多彩で、俳句会は利用者から高い人気を得ています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

き

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所内に掲示し、いつでも読めるようになっている。また、月1回のグループホーム会議でも共有して実践につなげている。	理念を親しみやすく身近に感じられるよう、わかりやすい表現につくりかえています。また、職員が共有できるように事務室の見やすいところに掲示したり、会議で繰り返すなどの取組みの結果、接遇など現場に反映されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加・山崎地区自治会の催し物への参加（敬老会・ふれあい広場・秋祭り等） 買い物は地域の店を利用している。	敬老会や社会福祉協議会のふれあい広場など積極的に出向く一方、法人の納涼会では地域の皆さんが手筒花火や和太鼓を楽しんでいます。また、家族会の弁当は近くから出前を利用するなどして、地域との関係づくりに努めています。	見学会や介護講座の計画など、事業所や認知症への理解を進めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ケ月に1回開催される運営推進会議で議題として取り上げ事業所としての支援を伝え、意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告、行事報告を行っている。 また、山崎地区自治会長の参加を仰ぎ、地区の行事の情報を得て地域の方達との交流に努めている。	2ヶ月に1回、利用者や地域住民も交え開催しています。日頃の様子を写真に収め、ビジュアルでの理解を求めています。現状報告だけでなく、熱中症など都度テーマを決めての進行で、意見を集める工夫にも取り組んでいます。	不参加の家族にも、議事録を毎月のたよりに同封するなどして情報を共有することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者に参加をお願いしている。また、会議後は、会議録を作成し提出している。	市役所からは運営推進会議への参加があり、事業所も報告書は必ず出向いて届けるようにしています。都合による欠席にも電話で次回参加をお願いし、事業所へ足を運んでもらえるよう努めています。介護相談員の訪問も月に2回あります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を守り、全職員意識をもって、実践している。 また、委員会を月1回開いており、担当職員が参加している。	玄関は施錠せず自由に出入りしています。安全対策委員会や法人の勉強会での内容を毎月の会議で職員全員に浸透させています。スピーチロックに関しては特に事務所に掲示するなど、意識づけを強化しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の入所者の方が利用している。 後見人と良好な関係が築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見要望を伺う機会を設けている。また、面会時に交流をはかりながら意見を伺っており、グループホーム玄関に意見箱を設けている。	日常の様子は、毎月のたよりに担当職員の手書きのコメントを添え、家族の安心につなげています。面会や病院の送迎時、また家族会などから意見を集めていて、要望を受け取る機会を多面的に設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議で意見を聞き、話し合っている。	会議では主に利用者のケアサービスに関するアイデアがでており、現場に反映しています。感染症対策に台所用漂白剤を薄めた液でドアノブを拭くのはその一例です。年1回職員は自己評価を提出しており、個別に意見聴衆の機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整えるよう改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、研修等で職員のケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時、交流の機会を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望を聞き、それに基づいたサービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族の要望を聞き、要望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援	入居時に本人と家族の意向を十分に理解して支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、共に暮らしをするもの同士お互いに寄り添いながら助け合い、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりで近況報告をしており、受診時は家族に付き添いをお願いして本人との関わりを大切にいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の情報や本人の生活史の把握に努め支援している。	利用者の家族や友人、知人の訪問があります。利用者が浜松祭りに知人宅に外泊するなど、馴染みの関係を大切に考え支援しています。また、行事などでは利用者の笑顔の写真を撮っておき、面会に来た家族に見せ喜んでもらえています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリェーション、行事、家事などを通し共に暮らす仲間として協力しながら仲良く生活していけるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された方のところに利用者と会いにい行ったり、グループの方に散歩がてら遊びにきたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度思いを聞き、本人にとって最適なケアになるよう努めている。また、会議でも一人、一人の状態を話し合いより良いケアが出来るように努めている。	夕飯後のほっとした時間帯に利用者と会話をもつことが多く、その機会を想いの把握につなげています。得た情報は連絡ノートで共有させ、取組みに活かしています。また各々役割をもってもらい、やりたいことを引き出す工夫もおこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握	入居以前の生活歴を重視し、本人の生活リズムに合わせて支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に記録し、連絡ノートを活用して情報を職員全員が共有している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム会議で話し合い、必要に応じて本人、家族と話しをし、個別の支援に努めている。	介護計画のモニタリングを3ヶ月に1回から1ヶ月に1回に増やしました。変化があったらその都度モニタリングを実施しています。会議では担当者を中心に、また家族とは面会や受診の折に、話し合いをもっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別ノートに記録し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに対して、併設している特養に相談、協力をお願いして対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の特養での慰問が多く（月平均2回ほど）参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を取り入れている。（受診時は家族が付き添ってくれる）	受診は家族の希望を取り入れ決めていますが、夜間の急変などを考え24時間対応の協力医との併用をお願いしています。受診結果は家族から聞きとり、連絡ノートに記載するほか、個別ノートを作成して全員で情報共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医にその都度伝え、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ数年、入院された利用者はないが、面会に行き状態を把握し、情報交換に努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医と家族で話し合っている。	法人内には多様な事業所があり、状態に応じて適切な移転先を紹介できるため、重度化した場合には移設しています。契約時にグループホームでできること、できないことを家族に説明し、移設となることについて合意形成できています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が落ち着いて適切に対応できるよう勉強会を行い、マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っており、地域の防災訓練にも職員が参加して交流を図っている。	事業所独自では月1回の避難訓練に努めるほか、法人で年2回、地域で1回の防災訓練に職員が参加しています。地域の避難所となっているため設備も整っていて、AEDが併設の新館にあり、職員全員がとりあつかえるよう訓練しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切にするよう努めており、言葉使いについても馴れ合いにならないよう常に職員で話し合っている。	法人内の接遇研修に参加し学習を進め、特に言葉遣いは意識を持って取り組んでいます。併設事業所の職員との行き来もあり、気づきをフィードバックしてくれるため、注意を受けて改善をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にし自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに応じた無理のない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にくる理髪を利用している。また、本人の希望を聞き、洋服等の買い物に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作りに加わってもらっている。利用者の希望を聞き外食を計画し楽しんでいる。	食事作りは利用者もできる役割を担ってもらい、やりがいと機能維持につなげています。収穫物のサツマイモをふかしておやつとして提供することもあります。月に1度のお楽しみ会の外出時には食事の機会を設けており、回転寿司は利用者に好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、食事摂取量を記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ、排泄表に記録し、排泄パターンをつかみトイレ誘導を行っている。	自室にトイレがあるので自分のペースで落ち着いて利用できます。誘導が必要な利用者に対してはチェック表を作り、パターンを把握して誘導しています。その際、「お部屋で手を洗いますか？」などと伝えて誘い、声かけにも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて、水分補給、運動に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の時間帯に一日おきに入浴している。毎日入りたい利用者には希望通り対応しており、一人一人のんびりと入浴できるよう支援している。	1対1の介助による個浴で、入浴は1日おきですが、毎日入りたい利用者には希望通り対応しています。季節ごとに菖蒲、ゆずなどを入れた行事湯にも取り組んでいます。大きな窓のあるゆったりした風呂場から上がった後は、ソファでゆっくり寛いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人、一人のペースに応じて対応して、安心して眠れるよう言葉掛けなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の説明書により把握し、状態の変化があれば主治医に連絡する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活を送るなかで役割を持っていただき出来る事への支援とそれに対しての感謝を伝え張りのある生活になるよう努める。また、外出を計画し生活のなかに楽しみを作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて一緒に買い物に出掛けている。気候の良い日には、園外に散歩に出掛けている。	浜名湖近くの自然に恵まれた立地であり、外気浴は天候が許せば毎日おこなっています。日用品や菓子を職員と買い物に行くこともあります。月に一度はガーデンパークやウォットなどに出かけ、外食も楽しんでいます。地域や法人の行事へも出かけ、今年の納涼祭では浴衣をきて参加しました。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出掛けた時には、希望に応じてお金の支払いをしてしていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも出来るよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロアーに季節を感じられるよう花を飾っている。居室や共有フロアー等、清潔に保たれるよう心掛けている。	共有空間は広くゆとりがあり、大きな窓とあいまって開放感があります。広い廊下には障害物がなく安全に配慮され、ソファが寛げる空間をつくっています。温度や湿度設定にも配慮し、夜のうちにモップをかけ、衛生にも気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアーにソファーがあり、のんびり寛げる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前生活していた環境に近づけるよう使用していた物を持ち込んだり、居心地良く生活出来るようレイアウトに工夫している。	大きなはきだしの窓から光が入って気持ちのいい居室です。窓からは自由にベランダに出ることができます。トイレと洗面台も備わり、気兼ねなく使うことができ、テレビや自分で作った人形を飾るなど、その人らしい暮らしが見えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレ、洗面があり、個々のプライバシーが保たれ自立した生活が出来るようにしている。		